

南九州大学 人間発達学部 子ども教育学科 令和7年度入学試験「出題の意図」

入試区分	出題意図
総合型Ⅰ期	子どもの自主性や創造性を尊重して自由な表現を促すための大人の役割について考えさせます。子どもの表現活動を支援する大人の関わり方や支援のあり方について、実際の現場でどのような行動や姿勢が大切なのかを具体的にイメージさせ、現実的な対応策を考えさせる意図があります。
総合型Ⅱ期	学習指導要領が改定され、高等学校でも精力的に総合的な探究の時間に探究学習に取り組んでいるが、その目的や意義については必ずしも共有できていない状況がある。そのため、はじめに調べることで受験生の探究学習への理解を深める。次に、目的や意義と照らし合わせて、自身が取り組んだ探究学習について、根拠を示しながら批判的に考察し評価をすることで、探究学習を教える側の視点で捉え直し、論じる。その際、論理的思考や批判的考察(否定的に捉えるのではなく多面的に捉える)の理解・能力を測る。
総合型Ⅲ期	障害のある子どもは、特別支援学校や特別支援学級といった特別支援教育に関わる専門性の高い学びの場で教育を受けることができる。しかし、通常の学級においても特別支援教育に関する専門性は求められている。障害のある子どもの学びの場は、障害の有無だけでなく、教育的ニーズ等に応じて検討されるものであることについて考えさせたい。
総合型Ⅳ期	喫緊の教育的課題である「一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識する」に対して、受験生が自分ごととしてとらえ、自分なりの考えや意見としてまとめることができる。 ○「自分のよさや可能性」の意味について具体的にとらえることができる。 ○「自分のよさや可能性」の意義について具体的に展開することができる。
総合型Ⅴ期	社会状況が大きく変化する中、スマートフォンでのインターネット利用が低年齢化している理由について調べたり、子供たちに必要な指導について考えたりして述べたことについて評価を行うことは、教育者を目指す受験生の適性をみる上で意義がある。また、調べたことを述べるときに出典を記述したり、自分の経験を踏まえて考えさせたりしたことを評価することは、受験生の情報活用能力をみる上で意義がある。
学校推薦Ⅰ期	2点ある。1点目は、パラアスリートと大会を支えるスタッフ、そしてアスリートに声援を送る観衆や姿から、障害者と健常者を包括する社会の在り様について考えさせること。2点目は、障害を抱えつつ懸命に競技に挑むパラアスリートの姿から何を感じたか、自分の生き方についても考えさせること
学校推薦Ⅱ期	現代の子どもを取り巻く環境と社会の動向を理解し、提示された資料と自身の考えを関連付けながら、主張を明確にし、論理的に、内容を正しく伝えることのできる力を測る。具体的には以下について判断する。 ① 目的に応じて、実社会のなかから適切な題材を決めることができる。 ② 自分の考えと資料とを関連付け、自分の考えを深めることができる。 ③ 主張を明確にし、論理の展開(主張を導くための筋道の考え方)を考えることができる。
帰国生徒Ⅰ期	遊びは、子どもの心身を育てるためには欠かせない行為である。子どもは遊びをとおして社会性や柔軟性、コミュニケーション能力などさまざまなことを学び、人間としての成長を遂げていく。また、遊びの中で見て、触れて、臭い、聞き、味わう等の五感をとおして得た経験は、学童期以降における教科等学習の学びの基礎を培う重要な働きを担っている。このような「遊びの有効性」について、経験値を踏まえながら、論理的に、内容を正しく伝えることのできる力を測る。
社会人Ⅰ期	現在、教育・保育の現場では、子ども・児童だけではなくその家庭への支援も必須となっている。その中で、様々な家庭の形があることを理解し、その家庭に応じた支援の仕方が求められていることについて、自身の経験等を踏まえて述べることができるか把握するため。家庭支援の在り方について、自分自身のことと捉え、考えていくことは、今後、本学科にて保育・教育者を志す学修において役立つと考える。
編入学	GIGA (Global and Innovation Gateway for All)スクール構想により、1人1台端末をはじめとするICTを活用した教育が進められる中、従来通りの紙の教科書だけでなくデジタル教科書も活用されるようになっていく。受験生が、自分ごととして、紙の教科書やデジタル教科書のメリットとデメリットを整理し、活用の工夫や留意点について自分なりの考えと根拠をしっかりと述べることを評価することは、教員を目指す学生の適性を知る上で意義がある。